

令和6年度 学校経営計画・学校評価				■4月4日提出		■10月3日提出		■3月14日提出		学校番号		44		宿毛		高等学校		課程		全		
高知県の教育の基本理念	(1)学が意欲にあふれ、心豊かでたくましく夢に向かって羽ばたく人 (2)郷土への愛着と誇りを持ち、高い志を掲げ、日本や高知の未来を切り拓く人 (3)多様な個性や生き方を互いに認め、尊重し、協働し合う人			基本方針	①予測困難な社会を生き抜く力を身につけるための教育の推進 ②多様な背景・特性・事情等を踏まえた包摂的な教育・支援の推進 ③生涯にわたって学ぶことができる環境づくりと活動・取組の推進 ④各種施策を総合的・計画的に推進するために必要な基礎的・基盤的な環境・体制等の整備																	
	スクール・ポリシー	【アドミッション・ポリシー】(入学受入れ方針) 宿毛高校では次のような生徒に志願してほしいと考えています。 ○総合学科の特色を理解し、進路実現に向けて探究心をもって努力することができる生徒 ○不得意なことにも自ら進んで挑戦し、最後まであきらめずに取り組める生徒 ○自他への興味関心を持ち続け、仲間と協力しながら課題に挑戦することができる生徒 ○部活動や生徒会活動、ボランティア活動等の校内外の活動に積極的に取り組むことができる生徒 【グラデュエーション・ポリシー】(育成を目指す生徒の資質・能力) OICTを活用し、少人数授業を実践することで、変化する社会に対応できる学力を身に付けた生徒を育成します。 ○他者と協働し、地域社会に貢献していく意欲と態度を身に付け、社会の一員として広い視野を持って、世界に目を向けられる生徒を育成します。 ○学校生活全体を通して主体性と協調性を育み、自分を大切にしながら他者への配慮ができる生徒を育成します。			【カリキュラム・ポリシー】(教育課程の編成・実施方針) ○進路希望や興味関心、習熟度に応じた教育課程により、2年次以降は「5つの系列」に分かれ、より専門的な学びを行います。 ○SDGsを意識した教科横断的な学びと、1年「産業社会と人間」や2・3年「自照(総合的な探究の時間)」での課題解決型探究活動を通して、職業観を育成し、地域理解の深化を図ります。 ○生徒が縦横に連携し、「自ら考え、行動できる集団」として主体的に取り組む姿勢を育成するため、学校行事や部活動、その他校外活動等に積極的に取り組みます。																	
(評価)A:目標を十分に達成 B:目標をほぼ達成 C:やや不十分 D:不十分																						
		育成を目指す資質・能力【P】		現状と目標(評価指標)		具体的な取組内容【D】		中間評価【C】		中間評価後の取組内容【P・D】		年度末評価【C】		見直しのポイント【A】								
重点項目	学力の向上	★確かな学力 ○基礎的・基本的・発展的な知識及び技能 ○思考力、判断力、表現力等 ○学びに向かう力、人間性等 ★将来を見通した学び ○将来にわたって学び続ける意欲(学習習慣を含む)		①学力定着把握検査におけるC層以上の生徒の割合 ・1年:前年度より2ポイント増 ・2年:前年度より2ポイント増 ②学力定着把握検査におけるD3層の生徒の割合:前年度より5ポイント減 ③「授業外学習(家庭学習等)をほとんどしない」と回答する生徒の割合:10%以下 ④「将来の可能性を広げるために勉強を頑張っている」の肯定的回答:90%以上		・基礎補習、支援員補習の充実(時間数の増加や対象生徒の選別)を図る ・学習支援ツール「すらら」「Monoxer」を効果的に活用する ・共通テストの受験者を3年生生徒数の10%を目標とし、個別指導を充実させる ・進路LHの充実、進路講演、保護者対象進路説明会の実施により、進路意識の高揚を図る		C	①C層以上 ・1年:21.5ポイント減 ・2年: 7.9ポイント減 ②D3層:6.0ポイント増 ③授業外学習をほとんどしない:15.7% ④肯定的回答:93.6%		・基礎補習、支援員補習の充実(時間数の増加や対象生徒の選別)を図る ・学習支援ツール「すらら」「Monoxer」を効果的に活用する ・個別指導を充実させる ・進路LHの充実、進路講演、保護者対象進路説明会の実施により、進路意識の高揚を図る		C	①C層以上 ・1年:1.6ポイント増 ・2年:7.6ポイント増 ②D3層:1.1ポイント増 ③授業外学習をほとんどしない:24.4% ④肯定的回答:85.1%		・適切な目標設定 ・「Monoxer」の効果的活用 ・上位層への実力養成 ・D3層への効果的手立て ・学習習慣の定着						
	社会性の育成	★豊かな心 ○自己存在感、自己有用感、コミュニケーション力、自己決定力等 ★多様性・包摂性 ○キャリアデザイン力(やりぬく力) ○他者への思いやり(地域・社会貢献、ボランティア活動等も含む)		①「人と一緒に何かをするときは、相手の気持ちを考えて行動している」の肯定的回答:90%以上 ②「解決に時間がかかることでも、最後まで考えたり、行動したりしている」の肯定的回答:90%以上 ③「物事が計画通りに進まないとき、どうすればよいのかを考え、乗り越えようとしている」の肯定的回答:90%以上		・様々な場面でのグループワークの充実 ・「産業社会と人間」や「総合的な探究の時間」によるプレゼンテーション活動 ・地元企業との連携(社会体験型学習、インターンシップ、聞き書き学習) ・手帳を利用した振り返り ・生徒会を中心とした仲間づくり活動 ・人権学習会や保健講話等を通じた活動 ・カウンセラーだより等の活用		A	①肯定的回答:95.9% ②肯定的回答:93.7% ③肯定的回答:91.1%		・様々な場面でのグループワークの充実 ・「産業社会と人間」や「総合的な探究の時間」によるプレゼンテーション活動 ・地元企業との連携(社会体験型学習、聞き書き学習) ・手帳を利用した振り返り ・人権学習会や保健講話等を通じた活動		B	①肯定的回答:96.7% ②肯定的回答:87.6% ③肯定的回答:83.5%		・適切な目標設定 ・「産業社会と人間」「総合的な探究の時間」「探究型授業」による課題解決学習の充実						
取組項目	地域協働学習	【取組のねらい】 ○生徒の社会的自立・社会参画に必要な資質・能力の育成 ○地域・関係機関との連携		①「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある」の肯定的回答:80%以上 ②「地域貢献活動やボランティア活動などを行ったことがある」の肯定的回答:50%以上 ③地域・関係機関との連携回数:5回以上		・長期休業中に、インターンシップやボランティア活動に積極的に参加するよう促す ・地元企業、関係機関との連携を図る ・「産業社会と人間」や「総合的な探究の時間」に限らず、各教科においても地域に協力を依頼 ・地域と連携した防災活動		B	①肯定的回答:76.8% ②肯定的回答:51.8% ③連携回数:4回以上 (商い甲子園、産社:宿毛JC、総探2年:宿毛市役所、総探3年:各所)		・地元企業、関係機関との連携を図る ・「産業社会と人間」や「総合的な探究の時間」に限らず、各教科においても地域に協力を依頼 ・地域と連携した防災活動		B	①肯定的回答:69.0% ②肯定的回答:65.6% ③連携回数:5回以上 (商い甲子園、産社:宿毛JC、総探2年:宿毛市役所、総探3年:各所、地域住民との合同防災訓練)		・「産業社会と人間」「総合的な探究の時間」の目的の明確化 ・各教科における地域や社会について考える機会の設定						
	教科横断的教育	【取組のねらい】 ○学習の基盤となる言語能力や情報活用能力の育成 ○各教科の学びを実社会での課題発見や解決に結び付ける力の育成		①「学校の授業では、学んだ知識をもとに自ら考え、まとめたり、話し合ったり、発表する機会がある」の肯定的回答:80%以上 ②「高校入学以降の学習によって、環境や社会の問題に対する意識や行動に変化があったと思う」の肯定的回答:80%以上 ③「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある」の肯定的回答:80%以上		・教員間による授業研鑽やICTを活用した授業改善を継続しながら、さらに教員同士が教科を越えて学び合う風土を作る ・教科内での指導法やICT教材の共有や、タブレット活用のための校内研修を行う ・グループワークの充実 ・キャリア・パスポートや手帳を利用した振り返り		B	①肯定的回答:95.8% ②肯定的回答:82.2% ③肯定的回答:76.8%		・教員間による授業研鑽やICTを活用した授業改善を継続しながら、さらに教科を越えて学び合う風土を作る ・教科内での指導法やICT教材の共有 ・グループワークの充実 ・キャリア・パスポートや手帳を利用した振り返り		B	①肯定的回答:92.9% ②肯定的回答:77.4% ③肯定的回答:69.0%		・「産業社会と人間」「総合的な探究の時間」の目的の明確化 ・各教科における環境や社会の問題について考える機会の設定						
		取組のねらい【P】		現状と目標(評価指標)		具体的な取組内容【D】		中間評価【C】		中間評価後の取組内容【P・D】		年度末評価【C】		見直しのポイント【A】								
チーム学校	学校の振興	★学校の魅力化 ○総合学科の内容(系列、選択モデル等)やメリットを中学生や保護者に理解してもらうための広報活動の充実		①総合学科発表会の来場者数:200人以上 ②体験入学への参加者数:80人以上		・ホームページや学校通信の充実 ・近隣中学校への学校案内配布 ・各行事後のInstagramへの投稿 ・模擬授業により「産業社会と人間」の取組を紹介		B	①総合学科発表会の来場者数:一人(2月) ②体験入学への参加者数:81人		・ホームページや学校通信の充実 ・近隣中学校への学校案内配布 ・各行事後のInstagramへの投稿		A	①総合学科発表会の来場者数:245人②体験入学への参加者数:81人		・各コースの特色ある取組の充実と発信 ・生徒の活躍や成果の発信						
	不祥事防止	★教職員の倫理観の堅持 ○不祥事防止対策の徹底 ○よりよい職場風土づくり ○教職員のメンタルヘルス ○不祥事発生時の適切な対応		○現状課題 「報道相」をしっかりと行うことにより不注意事象発生の防止、ハラスメントについての理解徹底を図る そのためにも、風通しの良い職場づくりを目指す ①校内研修の実施回数:各学期1回 ②不祥事防止委員会の実施回数:年3回		・「不祥事防止のためのチェックリスト」を用いて、定期的に理解徹底を図る ・管理職面談等、教職員が意見を述べる場面の設定 ・相談しやすい職場の風土づくり		A	①校内研修の実施 ・1学期:ハラスメント防止 ・2学期:個人情報の取り扱い ②不祥事防止委員会の実施:2回		・「不祥事防止のためのチェックリスト」を用いて、定期的に理解徹底を図る ・管理職面談等、教職員が意見を述べる場面の設定 ・相談しやすい職場の風土づくり		A	①校内研修の実施 ・1学期:ハラスメント防止 ・2学期:個人情報の取り扱い ・3学期:教育長による緊急メッセージ ②不祥事防止委員会の実施:3回		・定期的な啓発の継続 ・意見を述べやすく、相談しやすい職場の雰囲気づくり						
	働き方改革	★長時間勤務の解消 ○業務負担の公平化 ○業務の効率化・削減		①ノー残業デーを週に1日設ける ②月45時間を超える時間外勤務を年間通して2ヶ月以上おこなった教職員:7人以下		・仕事量が多い時期は、思い切って仕事を切り上げ帰宅するよう声がけを行いながら、教科の負担や担当業務を軽減できるよう教科主任や学年主任へ管理職から相談する ・「休日のまとめ取り」「勤務セレクト」等、制度の活用を促す		B	①ノー残業デー:6月下旬から設定 ②月45時間超2ヶ月以上:6人(4～7月)		・仕事量が多い時期は、思い切って仕事を切り上げ帰宅するよう声がけを行いながら、教科の負担や担当業務を軽減できるよう教科主任や学年主任へ管理職から相談する ・「休日のまとめ取り」等、制度の活用を促す		B	①ノー残業デー:週1回設定 ②月45時間超2ヶ月以上:9人		・業務の分担・効率化 ・教科・分掌内でのデータの共有・整理 ・形骸化しないノー残業デーの実施・継続						